

令和5年度

11月のおれんじサロン ひと・まち

～若年性認知症本人交流会～

令和5年11月8日（水） \ 若年性認知症ケアパスについて /

京都市健康長寿企画課所属の認知症地域支援推進員が、“若年性認知症ケアパス”を作成するに伴い、おれんじサロンのメンバーから意見を聞きたいと、本人ミーティングに参加されました。今回は2つのテーマ「おれんじサロン ひと・まちに参加したきっかけ」と「仲間と出会えたことについての思い」を様々な思いで語られました。

●おれんじサロン ひと・まちに参加したきっかけは…

「家族に強制的に連れてこられた。」

「何かわからずに参加した。」「医療機関から紹介された。」

「参加のきっかけはみんないろいろだったけど、実際にサロンに参加してみると、仲間と出会えたよね。」

「最初一歩のハードルは高いけど、一度参加すると素敵な出会いや新たな活動につながる場だとわかる。」



●仲間と出会えたことについての思い…

「ここに来れば家族以外の人に自分の思いを伝えられる（聞いてくれる人がいる）」

「仲間が増える場があることはありがたい。孤立感から抜け出す安心材料の一つで、暮らしの一部となっている。これからも一緒にやっていきたいし、新たな仲間と繋がってきたい。」

「最初は認知症と診断されてショックだった。サロンに来たら、前向きに頑張っている当事者と出会えた。自分も頑張らなきゃと思った。仲間ができたので、同じ苦しみ等が共有できるようになればと思う。」

「サロンには家族に強制的に連れてこられて戸惑ったが、下坂さんや同じ仲間との出会いがあり、帰りはスキップする気分だった。自分にも記憶障害があり、皆さんも同じ症状がみられるが、普通に物を作ったり、話したり、意思疎通ができています。至って普通なのが安心できる。」

「先輩の姿に元気づけられる。自然にピアサポートとなっていることが素晴らしいと思う。」

「自分の思いとしては、歩いて行ける範囲にサロンがあってほしい。」

令和5年11月22日（水） \ 12/2（土）つながるフェス！ /



今回は、12/2（土）開催のkyoto ところつながるプロジェクト“つながるフェス”で行う、若い世代とコラボした認知症啓発プロジェクトの出展ブース等について、最終打合せをしました。

当日は、おれんじサロンメンバーや若者たちのプロジェクトに参加した感想などの思いを伝えるリーフレットを配布します。また後日、プロジェクトの活動の様子がわかる冊子を発行する予定です。

※認知症啓発プロジェクトとは、「認知症を違ったイメージで伝えられたら」「若い世代にも認知症を理解してほしい」とのおれんじサロンメンバーの思いから始まった取組です。

【来月の予定】 12月13日(水) クリスマス会（外出企画）

※ 参加希望の方は下記までご連絡ください

【お問い合わせ】 京都市長寿すこやかセンター 電話(075)354-8741



【Facebook ページの QR コード】